



愛知県の
産地の現状

- ◆愛知県は荒茶生産量は577tで、全国生産量の1%程度であるが、全国有数の抹茶の原料となる高品質なてん茶の産地であり、生産量は364tと県内茶生産量の63%を占めている(R2年)。
- ◆近年の世界的な抹茶需要増加により、他県のせん茶産地がてん茶生産へと切り替えを進めたことで、てん茶価格の低価が顕著となっている。
- ◆てん茶価格向上を目的として、付加価値化を図るため、環境に配慮した栽培管理による高品質化が求められている。



茶栽培



てん茶



抹茶



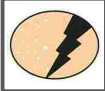
農総試での
関連研究成果

- ◆てん茶栽培での肥料を効率的に吸収させる（施肥量30%削減、収量20%増加）点滴施肥法を開発した。
- ◆高品質化のため、デジタル画像を利用したてん茶被覆法の判別技術を開発した。



解決したい
困りごと

- ◆本県のてん茶栽培は、ほ場の大幅な拡大が難しく、集約されていない生産者も多い。てん茶は、産地競争が激化しており、本県の産地維持のためには、用途別（抹茶用、加工用等）の高品質化・差別化を図る必要がある。
- ◆用途別の高品質化を図るため、リアルタイムで生育状況に合わせた施肥、かん水等の栽培管理ができるモニタリングと管理制御技術の開発と普及が必要である。



解決案

◆IoT土壌環境モニタリングに基づく施肥・灌水制御

安価な環境測定装置の開発に取り組んでおり、この開発中の装置にIoT技術を活用した土壌環境等のモニタリングや遠隔制御の技術を組み込んだシステムを開発することで、栽培管理の高度化とともに施肥かん水等の管理を省力化する技術を開発する。

さらに、今後、開発したシステムの商品化、アップデートやメンテナンス等のアフターケアを継続して行える体制を構築する必要がある。

担当者：環境基盤研究部・環境安全研究室・山本岳